

研究主題「勤労を尊び社会に奉仕する心を育てる道徳授業の指導の工夫

－奉仕体験活動に視点を当てた指導を通して－

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課

新宿区立戸塚第三小学校 教諭 立野 文雄

I 研究のねらい

今日、若者の規範意識や公共心、自己肯定感の低下が社会問題化している。また、対人関係能力が不足し、自立できない若者（NEET）が増加している。

このような状況を受け、「東京都教育ビジョン」（平成16年4月）取組の方向8では、「子どもたちの規範意識や公共心を確かなものとしていく必要がある。」と掲げ、平成19年度からはすべての都立高等学校で東京都設定教科・科目「奉仕」が必修化されることとなった。このことを踏まえ、小学校段階においても、勤労の大切さに気付かせ、社会に役立つ喜びなどを味わわせていくことで、現在及び将来の規範意識や公共心の育成につながると考える。

そこで、道徳の時間において、奉仕体験活動に視点を当て、指導の工夫を行った授業を展開することで、児童に勤労を尊び社会に奉仕する心を育てたいと考え、本主題を設定した。

II 研究の内容と方法

1 基礎研究

(1) 「奉仕体験活動」とは（法規、答申、先行研究より）

① 「体験活動」について

小学校においては、前条各号に掲げる目標の達成に資するよう、教育指導を行うに当たり児童の体験的な学習活動、特にボランティア活動など社会奉仕体験活動、自然体験活動その他の体験活動の充実に努めるものとする。この場合において、社会教育関係団体その他の関係団体及び関係機関との連携に十分配慮しなければならない。
<学校教育法第18条の2項>

② 「奉仕活動」について

奉仕活動は「自分の時間を提供し、対価を目的とせず、自分を含む地域や社会のために役立つ活動」と定義している。
<中央教育審議会答申「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について」（平成14年7月）より>

③ 「奉仕体験活動」について

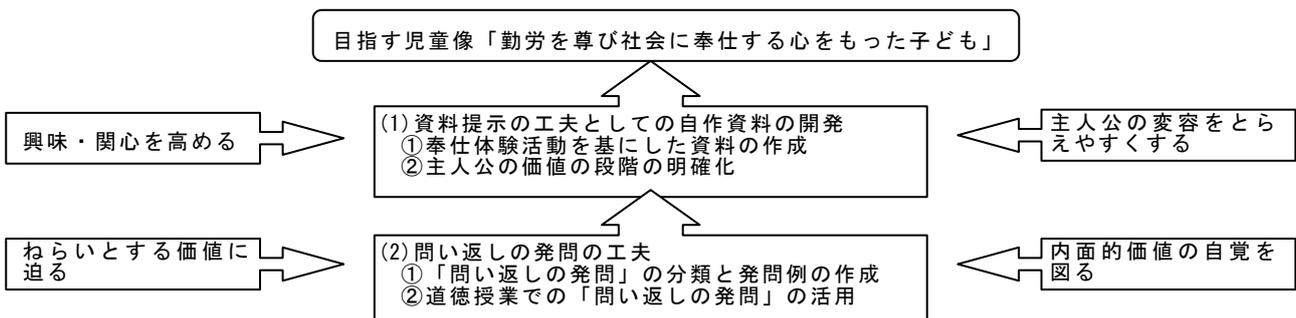
奉仕体験活動は「『奉仕活動』を体験する活動を『奉仕体験活動』とする。体験を通して、社会に貢献することの意義や大切さについて考え、将来、自分の意志で『奉仕活動』が実践できるよう学習を進める。」と定義している。
<平成17年度東京都教職員研修センター紀要第5号「奉仕体験・勤労体験活動の指導に関する研究」より>

(2) 「勤労を尊び社会に奉仕する心」について

○第3学年及び第4学年の内容項目4－(2)「働くことの大切さを知り、進んで働く。」
働くことの意義を自覚し、進んで社会に役に立とうとする心をもった児童を育てる内容項目である。
○第5学年及び第6学年の内容項目4－(4)「働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために立つことをする。」
勤労が自分のためだけでなく、社会生活を支えるものであることを理解し、社会への奉仕活動など公共のために役に立つ活動に目を向け、積極的に取り組めるようにすることが大切である。
<小学校学習指導要領解説道徳編より>

2 指導の工夫について

本研究では、「資料提示の工夫としての自作資料の開発」と「問い返しの発問の工夫」から目指す児童像に迫るよう研究を進めた。



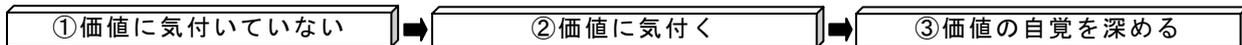
(1) 資料提示の工夫としての自作資料の開発

① 奉仕体験活動を基にした資料作成のポイント

- ア 家庭や地域、学校の教育活動で行った奉仕体験活動を基に話を構成する。
 イ 主人公の価値の段階を明確にした場面設定とする。
 ● 3つの段階〔①価値に気付いていない → ②価値に気付く → ③価値の自覚を深める〕
 ウ 主人公が勤労を喜び社会に奉仕する気持ちや実践している場面を設ける。

② 主人公の価値の段階の明確化

奉仕体験活動にかかわる主人公の価値に対する変容を3つの段階で資料構成した。児童が奉仕体験活動を振り返り、道徳的価値の意義や大切さについて考えられるようにした。



●自作資料名「花いっぱいになあれ」〔内容項目 中学年4- (2)〕について※補助資料4参照



●自作資料名「ゴミゼロデー」〔内容項目 高学年4- (4)〕について※補助資料5参照



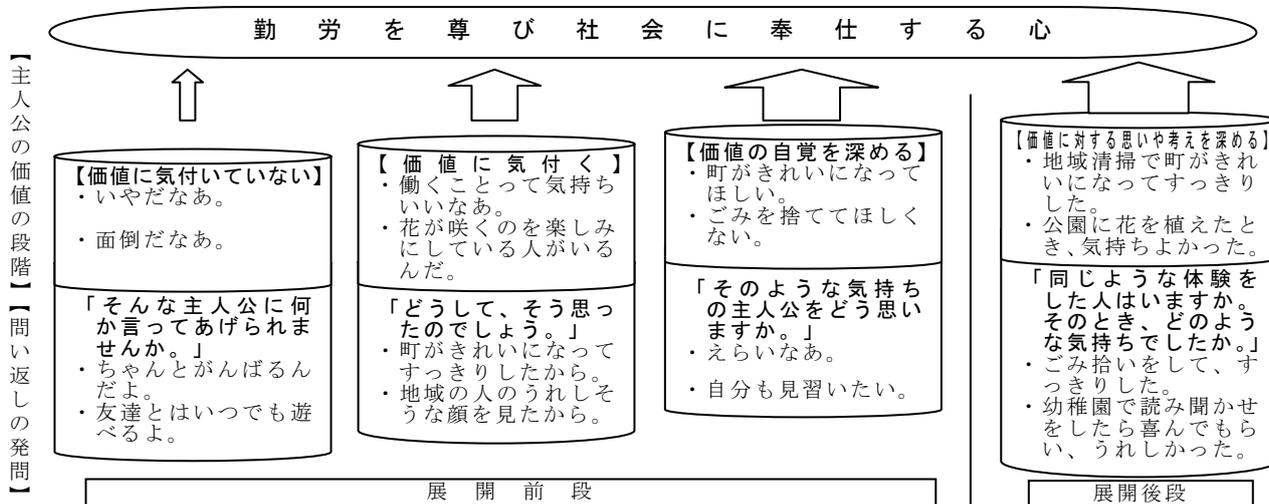
(2) ねらいとする価値に迫るための問い返しの発問の工夫

主人公の価値に対する段階をより意識させ、自分自身の価値に対する自覚を深めさせるために「問い返しの発問」を工夫した。展開前段では個々の児童に問い返し、展開後段では全体に問い返す方法を取り、児童の思考や話し合いを深めるようにした。「問い返しの発問」に対する児童の反応の深まり、広がりを通して、ねらいとする価値に迫ることを考えた。

● 主な「問い返しの発問」例 ※補助資料2参照

◆ねらいとする価値へ方向付ける (個へ)	→「そんな主人公に何か言ってあげられませんか。」
◆ねらいとする価値への気づきを一層促す (個へ)	→「どうして、そう思ったのでしょうか。」
◆ねらいとする価値を明確にする (個へ)	→「そのような気持ちの主人公をどう思いますか。」
◆実践意欲につなげる (全体へ)	→「同じような体験をした人はいますか。そのとき、どのような気持ちでしたか。」

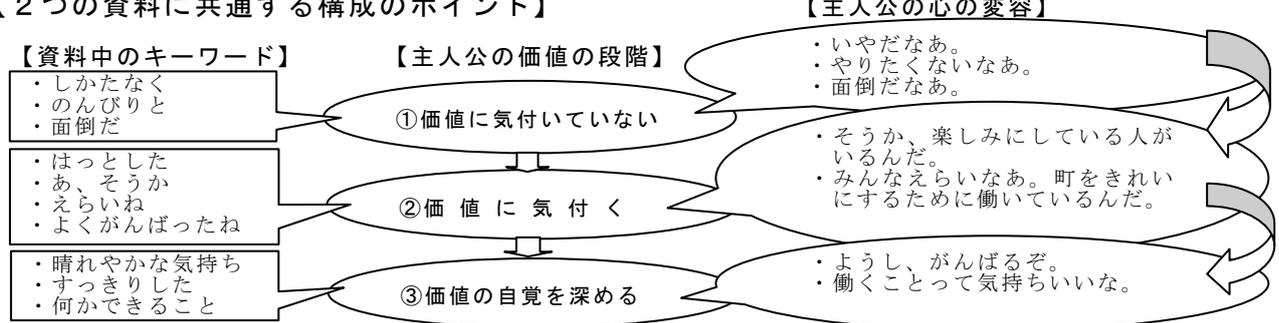
(3) 資料提示と問い返しの発問との関連



3 検証授業について

奉仕体験活動を基に主人公の価値の段階を明確にした「自作資料」の有効性と、ねらいに迫るための「問い返しの発問」の工夫の効果について授業研究を通して検証した。

【2つの資料に共通する構成のポイント】



(1) 資料名「花いっぱいになあれ」〔内容項目 中学年4－(2)〕の指導について

指導過程	主な発問に対する児童の反応	問い返しの発問に対する児童の反応
展開前段	① 朝、お父さんに起こされ、「花いっぱい運動」のことを聞かされたとき、さと子はどのような気持ちだったでしょう。 ・いやだなあ。 ・わたしが行かなくてもいい。	◇ねらいとする価値へ方向付ける ◆そんな主人公に何か言ってあげられませんか。 →近所の人もみんな行くんだよ。 →自分たちが使っている公園だから、きれいにした方がいいよ。
	② 「花が咲くのが楽しみだね。」という山田さんの言葉を聞いて、さと子はどのようなことを思ったでしょう。 ・みんなと協力して、わたしも頑張ろう。 ・自分が使っている公園をきれいにしよう。	◇ねらいとする価値への気付きを一層促す ◆どうして、そう思ったのでしょうか。 →花が咲くのを楽しみにしている人たちのために頑張ろうと思ったから。 →自分が使っている公園を自分できれいにしようと思ったから。
	③ 作業を終えた人たちの笑顔を見ながら、さと子はどのようなことを思ったでしょう。 ・花が咲くのを楽しみにしているんだ。わたしもちゃんと苗を植えてよかった。 ・また、花の苗を植えに来よう。	◇ねらいとする価値を明確にする ◆そのような気持ちの主人公をどう思いますか。 →初めの気持ちと変わってきている。最後までよく頑張ったと思う。 →働いたやりがいを感じていると思う。また頑張ろうとしていてえらい。
展開後段	○今までにお手伝いや仕事をして、よかったなと思ったことはありますか。 ・近所のおじいちゃんの荷物を持ってあげたとき、喜んでもらってよかった。 ・地域清掃をした所がきれいになったので、すっきりした。	◇実践意欲につなげる ◆同じような体験をした人はいますか。そのとき、どのような気持ちでしたか。 →けがしていたおばあちゃんの車いすを押してあげたら、「ありがとう。」と言われてうれしかった。 →地域清掃をしていたとき、通っている人に「えらいね。」と言われて頑張ろうと思った。

(2) 資料名「ゴミゼロデー」〔内容項目 高学年4－(4)〕の指導について

指導過程	主な発問に対する児童の反応	問い返しの発問に対する児童の反応
展開前段	① お父さんに「さあ、行くぞ！」と言われたとき、ひろしはどのような気持ちだったでしょう。 ・遊びに行きたいなあ。 ・面倒だなあ。	◇ねらいとする価値へ方向付ける ◆そんな主人公に何か言ってあげられませんか。 →ちゃんとごみ拾いしなければダメだよ。 →自分からやることも大切だよ。
	② 遊びをやめてごみ拾いをしているひろしは、どのようなことを思っているでしょう。 ・みんなが汗を流してやっているんだから、自分もやらなくちゃダメだ。 ・働くことって、気持ちいいんだ。	◇ねらいとする価値への気付きを一層促す ◆どうして、そう思ったのでしょうか。 →自分は遊んでやっていたのが、はずかしくなったから。 →ごみ拾いが楽しくなって、すっきりしたから。
	③ ひろしは、どのような気持ちでポスターを作ったでしょう。 ・町の役に立つならしっかりやろう。 ・ごみを捨てないでほしい。	◇ねらいとする価値を明確にする ◆そのような気持ちの主人公をどう思いますか。 →自分にできることをやってえらい。やり始めたことは最後まで頑張っしてほしい。 →自分が住んでいる町のことをちゃんと考えるようになったんだ。
展開後段	○今までに人の役に立ったり、社会をよりよくしたりすることで、どのようなことをしたことがありますか。そのとき、どのような気持ちでしたか。 ・地域清掃でごみ拾いをした。拾いにくい所に落ちているとため息が出る。やった後はすっきりするが、ごみは減らしてほしい。 ・ユニセフ募金をした。どこの国の人も幸せになってほしい。	◇実践意欲につなげる ◆同じような体験をした人はいますか。そのとき、どのような気持ちでしたか。 →地域清掃をやり始めたときは、面倒だなあと思っていた。でも、歩いている人から「えらいね。頑張ってるね。」と声をかけられ、うれしかった。 →学校でやっているネパール募金をした。写真でネパールの子供たちが病気にかかっているのを見たので、募金で早くよくなってほしい。

Ⅲ 研究の結果と考察

1 児童の変容について

自作資料「ゴミゼロデー」を用いた授業では、次のように3つの価値に対する段階について、実態の異なる児童の変容を追い考察した。

※児童の価値に対する段階 【①価値に気付いていない ②価値に気付く ③価値の自覚を深める】			
	○児童の実態 ・「担任からの聞き取り」	手だて・方法 ◆問い返しの発問・反応	授業後の変容「アンケートより」 「これから、人や社会のためにどんなことをしてみたいと思いますか。」
Aタイプ児童 ①→③へ	○ごみ拾いは面倒だと思っている。 ・面倒臭い。 ・仕方なくやる。	◆主人公へ何か言ってあげられませんか。 ・気持ちは分かるけど、やりなさい。 ◆同じような体験をした人はいませんか。 ・地域清掃のとき、なぜ、こんなに物を捨てるのだらうと思った。ゴミが減るのはうれしい。	・地震が起きたりして助けを求める人がいたときに、自分にできる援護をしてみたい。もう自分で何もできないという人を救いたい。
Bタイプ児童 ②→②へ	○ごみ拾いは大切だと思っている。 ・ごみ拾いは大切だ。 ・やらないとはずかしい。	◆同じような体験をした人はいませんか。 ・近所の人とあいさつをして気持ちよかった。	・あいさつを大切にしたいと思います。近所の人や、朝、学校に来たときに、しっかりあいさつをしたいと思います。
Cタイプ児童 ②→③へ	○ごみ拾いは大切だと思っている。 ・与えられたことをしっかりやる。 ・何事もまじめに行う。	◆そのような主人公をどう思いますか。 ・自分にできることをやってえらい。やり始めたことは最後まで頑張ってほしい。	・町がきれいになるとみんなが気持ちよくなるから、地域清掃をしっかりやりたい。 ・人の役に立つとうれしいから、いろんなボランティアをしてみたい。

<Aタイプ児童について>

地域清掃の知らせをすると、「えー。」などと発言し、活動に消極的であった。上記のように問い返したり、話し合ったりしたこと、授業後には「地震被災者を救済したい。」という意欲的な気持ちが表れた。問い返しの発問で児童の心を掘り起こすことで、児童の内面のよさを見いだすことができた。

<Bタイプ児童について>

知識や理解力のある児童で、価値の大切さについて理解している。「同じような体験をした人はいませんか。」の問い返しに「自分が気持ちよくなった。」という発言をした。この児童には、相手意識をもった「人のため、社会のためにかをする。」といった価値の自覚に深まりのある発言がほしかった。

<Cタイプ児童について>

何事にもまじめに取り組むが、受動的な児童である。本学習では、主人公の頑張りを理解し、主人公を励ます発言を行うなど、価値の自覚に深まりが見られた。授業後には「みんなが気持ちよくなるから」、「人の役に立つとうれしいから」など、人や社会の役に立つことを意識したコメントを記した。

今回の指導の工夫では、自作資料が自分自身と重ねやすいこともあり、特にAタイプの児童に有効であることが検証できた。Bタイプの児童については、今後の体験の積み重ねや価値の自覚がより深まるような指導の工夫、考える時間の設定などが課題として残る。

【価値の自覚を深めるための指導例】

①体験の積み重ね	②価値の自覚が深まる指導の工夫	③考える時間の設定
↓	↓	↓
<奉仕体験活動の実施> ・地域の人や保護者、教師、友達に認めてもらう。	<グループによる話し合い活動> ・自分の意見が出しやすい ・自分にも同じような体験がある。	<ワークシートの活用> ・価値の段階ごとに書く活動を取り入れ、じっくり考える。
↓	↓	↓
充実感・満足感、友達への共感、自分への自信、人や社会のために役立つ心		

2 成果について

- 主人公の価値の段階を明確にした資料構成としたことで、児童が主人公の気持ちの変容をとらえやすかった。また、児童に身近な奉仕体験活動を基にした資料は、児童が主人公の気持ちと重ね合わせながら考えることができ、主題に迫ることができた。
- 資料の3つの価値の段階及び展開後段での「問い返しの発問」を行ったことで、児童の内面的な価値の自覚を図り、ねらいとする価値に迫ることができた。

Ⅳ 今後の課題について

- 発達段階を踏まえた奉仕体験活動の分野、活動の種類等をさらに整理し、道徳授業に生かす指導方法の工夫について、引き続き研究を深める。
- 「勤労を尊び社会に奉仕する心」を育てるために、奉仕体験活動を生かし、児童の実態に合った資料の選定や発問の工夫、資料の開発などを進める。

【補助資料 1】

◎奉仕体験活動の内容について

平成 14 年 7 月の中央教育審議会答申「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について」では、「◎新たな「公共」を担う「奉仕活動」の例（注）特定非営利活動促進法による分類を参考として作成」として 12 分野が挙げられている。また、平成 17 年度東京都教職員研修センター紀要第 5 号「奉仕体験・勤労体験活動の指導に関する研究」では、「奉仕体験活動」の例として 10 分野が挙げられているが、本研究では、小学生の発達段階を踏まえた奉仕体験活動について、次のようにまとめた。

①保健、医療又は福祉の推進を図る活動 ・指定介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）等において利用者の話し相手、音楽や芸能などの発表をする。
②教育の推進を図る活動 ・幼稚園や保育所等での幼児への絵本の読み聞かせを行う。
③まちづくりの推進を図る活動 ・商工会や町内会が企画する祭りなどの手伝い（チラシの配布など）をする。 ・地域を花で飾る「花いっぱい運動」や町の清掃活動に参加する。
④文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動 ・囲碁・将棋、百人一首、お手玉、折り紙、郷土芸能などの日本の伝統・文化や合唱・器楽演奏、書道、絵画などの芸術を体験する。
⑤環境保全を図る活動 ・海辺や河川流域などの清掃・美化キャンペーンに参加する。 ・公園の花壇の花の手入れ、ごみ、落ち葉などの清掃や草取りなどを行う。
⑥災害救援活動 ・被災地への募金活動を実施したり、被災者を励ます手紙を書いて送ったりする。
⑦地域安全活動 ・町内会などが行う通学路の安全点検や落書き消し等に参加する。 ・地域安全マップを作成する。
⑧人権の擁護又は平和の推進を図る活動 ・経済的に深刻な問題を抱えている人たちへの援助活動（募金活動、リサイクルの衣類や学用品等を送る）を行う。 ・国際理解のための国際交流活動に参加する。
⑨子どもの健全育成を図る活動 ・児童館、学童クラブなどが催すイベントの手伝い、下級生の遊び相手などを行う。

【補助資料 2】

◎ねらいとする価値に迫るための「問い返しの発問」の分類・整理と発問例

児童の多様な反応に備えて、「問い返しの発問」を分類・整理した。資料や児童の実態を踏まえ、効果的に活用することで、ねらいとする価値に迫りたいと考えた。

ねらいとする価値にかかわる分類と意図	問い返しの発問例
1 ねらいとする価値を明確にする場合 ○児童の反応がはっきりしない場合、抽象的な場合に児童の思いを明らかにする意図	◇それは、どのようなことですか。 ◇たとえば、どのようなことですか。 ◇どのようなイメージですか。 ◇そのような気持ちの主人公をどう思いますか。
2 ねらいとする価値へ方向付ける場合 ○児童の反応をもとに、価値に気付く方向へ広げる意図	◇もう少し説明してください。 ◇もう少し続けてください。 ◇そんな主人公に何か言ってあげられませんか。
3 ねらいとする価値に関する心情を確認する場合 ○児童が心情を言葉で十分に表現できないときに助言し、心情を確認する意図	◇〇〇さんが思っていることは、こういうことですか。 ◇主人公の気持ちと同じということですね。 ◇〇〇君の発言と少し違うのですね。
4 ねらいとする価値に対する自他の思いを対比し考えさせる場合 ○児童の多様な考えを基に価値に迫っていく意図	◇あなたなら、どう思いますか。 ◇あなたなら、どうしますか。 ◇〇〇さんと同じ立場に立ったら、どのような気持ちでしょう。 ◇もしあなたが、主人公のようになったら、どうしているでしょう。
5 ねらいとする価値の自覚を深める場合 ○児童が内面で自覚していることを言葉で表出させる意図	◇その時、あなたは、どう思いましたか。 ◇～について、どのように感じましたか。 ◇なるほど、それでどう思いましたか。
6 ねらいとする価値への気付きを一層促す場合 ○児童の価値への気付きを、さらに自覚させ促す意図	◇どうして、そう思ったのでしょうか。 ◇〇〇君は、このように言っていますが、皆さんはどうですか。 ◇登場人物がそのように考えた理由は何でしょう。
7 道徳的实践意欲につなげる場合 ○価値について自覚したことを、生活の中での実践へと方向付ける意図	◇同じような体験をした人はいますか。そのとき、どのような気持ちでしたか。 ◇今度は、どうしようと思いますか。 ◇〇〇さんの活動について、ほかの人はどう思いますか。 ◇もし、そのような機会が訪れたら、どうしますか。

※ 1～6 は個々の児童に対して、7 は全体に問い返す。

◎奉仕体験活動にかかわる副読本の資料分析

副読本に掲載されている〔内容項目 中学年4-(2), 高学年4-(4)〕に関する資料の中で、奉仕体験活動にかかわる資料を選択し、資料がどのように構成され、主人公の価値の段階がどのようになっているかについて分析したところ、価値に気付いていない1の段階から価値の自覚を深める3の段階となっている。

＜「ピーパーのムクちゃん」(大山淳枝作) 出典『3年生のどうとく』(文溪堂)の資料分析＞

主人公の価値に対する段階 ○主な発問例	内容項目との関連	主人公の気持ち	資料中のキーワード
1 価値に気付いていない ○仕事の途中で遊び始めたムクちゃんはどのような気持ちか。	○遊ぶことに夢中になり、仕事を忘れてしまった。	○遊ぶのは楽しいなあ。 ○後から仕事をすればいいや。	○なかなか集められません。 ○運ぶのを忘れて遊んでしまいました。
2 価値に気付く ○お父さんにしかられて、ムクちゃんはどのようなことを考えたか。	○みんなのために働くことは大切なんだ。	○食べ物がなくなったら大変だ。 ○この仕事は、みんなのためになるんだ。	○お父さん、お母さんはとてもいそがしそうに働いています。 ○そうだ。
3 価値の自覚を深める ○木を切ったり、木の皮を運んだりしているとき、ムクちゃんはどういうようなことを考えているか。	○働くことに喜びを味わい、人や社会に役立つと考える。	○早くからきちんとやればよかった。 ○みんなのために、頑張ろう。	○ダムがこわれたら大変だ。 ○食べ物がなくなったら大変だ。 ○よいしょ、よいしょ。

＜「みかん出し」(編集委員会作) 出典『新しいどうとくーゆたかな心ー』(旧版4年生/光文書院)の資料分析＞

主人公の価値に対する段階 ○主な発問例	内容項目との関連	主人公の気持ち	資料中のキーワード
1 価値に気付いていない ○みかんのより分けの仕事を始めた純子は、どのような気持ちだったか。	○仕事の大切さに気付いていない。 ○仕方ないやいや仕事をしている。	○友達と遊びたい。 ○みかんがたくさんあるから大変だ。 ○仕事にあきた。	○またか。 ○うんざりしてしまう。 ○仕事にあきていました。
2 価値に気付く ○今までの倍の速さで仕事が進むようになったとき、純子はどのようなことを考えたか。	○家族のために働くことは大切なんだ。 ○働くことって、楽しいなあ。	○わたしも頑張ろう。 ○みかんのより分けって楽しいな。 ○出荷前により分けは大切な仕事だ。	○だんだんむちゅうに ○楽しくなって、どんどん仕事が進みました。 ○また倉庫にかけこみました。
3 価値の自覚を深める ○仕事が終わり、お母さんに褒められたとき、純子はどのような気持ちだったか。	○働くことに喜びを味わい、すばらしさを感じ取っている。	○ほめられてうれしいなあ。 ○役に立ってよかった。 ○また、頑張ろう。	○わたしも役に立ったんだ。 ○とてもうれしく ○心の中まであたたかく

＜「小さな手から」(藤澤美智子作) 出典『みんなのどうとく5年』(学研)の資料分析＞

主人公の価値に対する段階 ○主な発問例	内容項目との関連	主人公の気持ち	資料中のキーワード
1 価値に気付いていない ○ひなん所の体育館で目が覚めたとき、ゆみ子はどのような気持ちだったか。	○みんなのために働くことの大切さに気付かず、ぼんやりしている。	○これからどうなるのだろう。 ○どうしたらいいのだろう。	○ぼんやり ○何もする気になれない。
2 価値に気付く ○先生方がみんなのために働く姿を見て、ゆみ子はどのような気持ちになったか。	○みんなのために働くことはすばらしいことなんだ。	○何もしない自分がはずかしい。 ○私にも何かお手伝いできないだろうか。	○大西先生の姿がゆみ子にはまぶしい。 ○ひなん者のために力を尽くしている。
3 価値の自覚を深める ○おばあさんにほほえみかけられたとき、ゆみ子はどのような気持ちになったか。	○社会の役に立った喜びを味わい、社会に役立つことを自分なりに考えていこうとする。	○みんなを明るくしたい。 ○人に喜んでもらってうれしい。 ○また、頑張ろう。	○おばあさんがうれしそうにほほえみかけてくれた。 ○笑顔にはげませれ～ ○生き生きと～

＜「きもちのよい朝」(編集委員会作) 出典『道徳 あすをみつめて6年』(日本文教出版)の資料分析＞

主人公の価値に対する段階 ○主な発問例	内容項目との関連	主人公の気持ち	資料中のキーワード
1 価値に気付いていない ○掃除を熱心にやらなくなってきたころの「わたし」は、どのような気持ちだったか。	○掃除のつらさなどから働くことに消極的な態度である。	○私たちだけがやらなくてもいいんじゃない。 ○公園を使っている人はほかにいる。	○いやげがさしてきた。 ○集合時刻にもおくれがち ○熱心にやらなくなった。 ○母にせかされ、いやいや
2 価値に気付く ○森さんに「さすが6年生ね。」と声をかけられたときの「わたし」は、どのようなことを思ったか。	○人や社会のために働くことは大切なんだ。	○下級生の方が自分よりえらいなあ。 ○こんなにやる気のない気持ちじゃダメだ。	○はずかしくてたまらない。 ○さすが ○熱心にやってるわね。
3 価値の自覚を深める ○表彰式の日「わたし」は、どのような心境でしょう。	○人や社会の役に立った喜びを味わい、社会に役立つことを大切なことと考え、実行していこうとする。	○ほかに何かできることはないだろうか。 ○みんなのために何かやりたい。 ○みんなに喜んでほしい。	○気持ちのよい朝になった。 ○町を美しくしようという呼びかけ ○みんなで、市長さんをお願いする。

【補助資料4】

花いっぱいになあれ（自作資料）

七月の日曜日の朝のことです。

「さと子、朝だよ。いつまで、ねてるんだ。」

さと子は、お父さんの声で目がさめました。

「なあに、今日は日曜日でしょ、どうしてこんなに早く起こすの。」

さと子は、ねむい目をこすりながら言いました。

すると、お父さんが、さらに大きな声で、

「さと子、今日は公園の『花いっぱい運動』の日だぞ。もう、となりのゆみ子ちゃんたちは公園に行っているぞ。」

と言いました。

そうでした。今年から七月の第三日曜日の朝、『花いっぱい運動』といって、近くの公園の花だんに花の苗を植えることになっていたのでした。

（せっかくの日曜日なのに、まだ、ねむいなあ。）

さと子は、しかたなく、ゆっくりと起きてきました。

お父さんにせかされて、急いで朝食を食べてから公園に向かいました。急ぐ

お父さんの後をのんびりといつて行きました。

公園に着くと、いつも見なれた近所の人がたくさん集まって、一生けん命に花だんの土をたがやしていました。どうしてこんなにたくさんの方が来ているのか、さと子は、少し不思議でした。



さと子もシャベルを使って、花だんの土をたがやしはじめました。その日は、とても良い天気で、だんだん暑くなってきました。

（暑いなあ。）

さと子の土をたがやす手は、あまり動きませんでした。

その時です。

「さと子ちゃん、暑いのによくがんばっているね。」

声をかけてくれたのは、向かいに住む山田さんでした。



さと子は、少しうれながら、「今日は、暑いですね。」と言いました。

山田さんは、話を続けました。

「この公園は、花がよく咲いているから、さんぽに来るのがとても楽しみなんだよ。今年もつときれいになりそうで、今日植える苗に花が咲くのが楽しみだね。」

さと子は、山田さんの話を聞いて、はっ、としました。今日の『花いっぱい運動』に地いきの人がたくさん参加している理由が分かったような気がしました。

地いきの人が花だんの土をたがやし終えると、今度は、花の苗を植えることになりました。日がよく照って、ますます気温は上がってきます。さと子は、汗をたくさんかきながらも、ていねいに心をこめて苗を植えました。やがて、公園の花だんは、たくさんのお花の苗で、いっぱいになりました。そして、最後に、たっぷり水やりをして、今日の活動は終わりました。



作業を終えた人たちの顔はみんな、汗いっぴいになりながらも笑顔であふれていました。さと子の手や服は、土まみれでよごれていましたが、気持ちはとても晴れやかでした。

「お父さん、花が咲くのが楽しみだね。」

さと子は、え顔で話しかけました。

「そうだね、二週間もしたら、公園は花でいっぱいになるぞ。その時は、お母さんといっしょに見に来よう。」

「うん、そうしよう。早く花が咲かないかなあ。」さと子は、そう言うと、お父さんと手をつないで、はむむように家に帰っていききました。



『ゴミゼロデー』（自作資料）

ひろしの住んでいる町では、毎年五月三〇日に『ゴミゼロデー』といって、地いきの商店街の人やボランティアの人たちが集まって、公園や広場などのゴミ拾いをする活動を行っています。今日は、その『ゴミゼロデー』の日です。ひろしも家族といっしょにゴミ拾いをする事になっていました。ところが、ひろしは、友達と遊ぶ約束をしていたのです。

朝食が終わり、家族が軍手やゴミぶくろなどの準備を始めた時に、ひろしが言いました。

「お父さん、今日は友達と遊ぶ約束をしていたんだ。『ゴミゼロデー』には行かなくてもいいよね。」

「えっ、今ごろ何を言ってるんだ。今日のことは、もう前から分かっていたことだぞ。地いきの人もたくさん集まるんだ。さあ、行くぞ！」

お父さんは、強い口調で言いました。

「ぼくは、ゴミなんか捨ててないから、行かないよ。」

ひろしは、大きな声で言い返しました。

「自分がゴミを捨てたから、拾うんじゃない。みんなの町をきれいにするために拾うんだ。」

と言いました。

「でも、ぼくは、どこにもゴミを捨ててないよ。」

また、ひろしが言い返すと、

お父さんは、あきれた表情で

「もう、いい。勝手にしろ！」

と言って、集合場所に向かいました。

ひろしは、もやもやした気持ちでしたが、そのまま遊びに出て行ってしまいました。約束していた広場で友達と遊び始めましたが、楽しいはずの遊びが、今日はあまり楽しくありませんでした。

しばらくすると、広場の向こうがざわざわしてきました。よく見ると、むねに『ゴミゼロデー』と書いてあるゼッケンをつけた人たちが、ゴミ拾いをしてるところでした。そこには、ひろしのお父さんやお母さん、妹のすがたも見えました。みんな汗だくでタバコの吸いがらや空きかん、紙くずなどを拾って



いました。

まもなく、広場の中のゴミ拾いが始まりました。その様子をじっと見ていたひろしは、思わず声が出ました。

「あ、そうか。」

ひろしたちは、遊びをやめてゴミ拾いを始めました。

ひろしは汗をかきながら、一生けん命にゴミを拾い

ました。やがて広場はきれいになり、ひろしは、すつき

りした気分になりました。

ひろしの様子を見ていたお父さんが、

「ひろし、よくがんばっていたな。えらいぞ。」

と言ってくれました。ひろしは、とてもうれしくな

りました。

「お父さん、さっきはごめんね。みんなが『ゴミゼロ

デー』に参加している理由が分かった気がするよ。」

と言うと、お父さんは、にっこりしました。

ゴミ拾いが終わると、家族四人そろって家に帰りました。

お昼ご飯の時間になり、今朝の『ゴミゼロデー』のことが話題になりました。「どうしたら、ゴミがなくなるんだろうな。ひろしに何かできることはないか？」

とお父さんが話しました。

「ぼくにできること？」

ひろしは考えてみました。

「あ、そうだ。ポスター作りはどうか。ポスターだったら、ぼくにもできそうな気がする。」

「なるほど！ それはいいんじゃないか。」

お父さんも賛成してくれました。

食事が終わると、ひろしは、さっそく紙とペンを用意しました。そして、今朝の『ゴミゼロデー』のことを思い出しながら、心をこめてポスター作りを始めました。

